

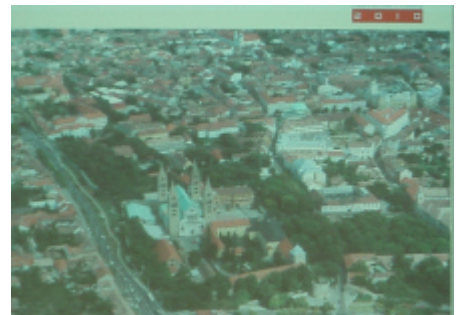
国際シンポ「観光まちづくりの国際比較」

標記のシンポジウムが 11 月 15 日(土) 人文社会学部棟 1 階会議室にて 40 数名の参加により行われた。本年度の特別奨励研究に採択された「文化的多元性の保存と発展に関するペーチ大学(ハンガリー)との共同研究」(代表：山本明代准教授)の一環であり、観光まちづくりがテーマであり、私も準備から報告まで企画に加わった。

報告者はパプ・ノルベルト・ペーチ大学地理学研究所地中海東部・バルカン研究センター長、鬼頭敏広・名古屋市市民経済局文化観光部長、それに私、コメンテーターは鈴木



木広和・大阪大学准教授と吉田一彦・研究科長である。パプ先生は「ペーチの都市政策と観光 ヨーロッパ文化首都 2010 年ペーチの計画とその可能性」のテーマで、多くの写真や資料を使って報告した。前日にもペーチの写真を見せてもらったが、2000 年の歴史がある美しいハンガリー第 5 の都市ペーチの街並みが印象的であった。ペーチ大学は 3.3 万の学生を擁するハンガリー最大の大学である。パプ先生から研究所刊行の分厚い本を頂戴したが、わが研究所の実態を考えると羨ましいかぎりだ。



当初、ペーチと名古屋の国際比較がうまくできるか心配だったが、都市政策と文化と観光というテーマで議論が一定かみあい、私も多くの示唆を得ることができた。鬼頭部長に続いて「名古屋の観光まちづくり」をテーマに報告したが、座長を務める名古屋の観光推進を考える研究会の成果を紹介できて良かった。シンポジウムについては、報告書や年報などで詳しく紹介していくが、とりあえず報告しておきたい。

(2008 年 11 月 18 日 記)